



柔らかな日差しの中、2歳児クラスがしゃぼん玉遊びを楽しみました。準備された道具を見るなり興味津々の子どもたち。保育士がやってみせると「わあー!」と一気に目が輝き、期待に胸をふくらませていました。どの子も夢中になって道具を振ったり吹いたり回したり…。試行錯誤の末やっとできたしゃぼん玉に「先生見て!」と満面の笑顔がいっぱい。この日は春から始まった『子ども誰でも通園制度』のお友だちも一緒にしゃぼん



玉遊びを楽しみました。最後は保育士の手作り道具から飛び出した巨大なしゃぼん玉に大喜びのみんな。「大きい!」「まって!」と一心不乱に追いかけて、パチンツ!と消えたしゃぼん玉に???がいつぱい。周りを見渡して探す姿が、何ともかわいらしい2歳児さんでした。遊びの中で学んで考えて答えを探して…。これから様々な経験を通して成長していくみんなの姿が楽しみです。

「みてみて!できた!」

さかえ保育所

本校の総合的な学習の時間では「地域学習」を軸に据え、三年間を通して一貫した探究の体系を構築し、地域活性化・地域素材の活用・生徒の主体的探究の深化を目指しています。

3年生は、地域に「貢献する・発信する」をテーマに、5月12日から14日に実施した、岩手県での見学旅行において、広域地域の事例との比較を行い、自分たちの地域活性化案の企画・実践、地域イベント運営、政策提案に向けた協働プロジェクトの立案などに取り組みました。今後とも、社会とつながる経験を通して、キャリア形成へとつながる学びを深めていきます。

2年生は、地域を「探る・つくる」をテーマに、6月17日に長万部駅前街道の花壇整備を行いました。町の社会福祉協議会と連携し、地域課題の構造を理解したうえで解決策を考える学習を進め、地域づくりに主体的に関わる姿勢を育むことができました。今後、10月に実施する札幌での宿泊研修等を通じて、体験↓探究↓実践の体系化を図ります。

1年生は、地域を「知る」をテーマに、7月23日に約15の地域事業所等で地域インタ



花壇整備

ビュー学習を実施しました。フィールドワークやインタビュを通して、自然・文化・産業・人などの地域素材に触れ、地域の課題や魅力を「自分ごと化」する学習を行っています。今後も、地域との協働の在り方の探究や生徒の学びの主体性の伸長を図ります。

このような3年間の学習を通して、生徒が「地域づくり」に主体的に参画する意識を育成するとともに、「地域活性化」に寄与する学びを実現することを目指しています。本校で展開している地域素材を活かした三年間一貫の総合的な学習の時間は、地域活性化と生徒の探究力育成を同時に実現する、強力な教育モデルであると考えております。

今後の課題としては、小中



見学旅行

高連携による単元設計の工夫（重複の回避）、らせん型で「知る↓探る↓創る↓発信する」を繰り返す学習の体系化、地域の“人”を教材化するゲストティーチャー事業の充実、発表スキルの系統的指導、生徒の興味を尊重した選択制テーマの導入などが挙げられます。

長万部中学校の総合的な学習の充実には、地域の皆様のご理解とご協力が欠かせません。今後とも、地域活性化・地域素材の活用・生徒の主体的探究の深化を図る教育活動の推進に努めてまいりますので、引き続き本校の教育活動に、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「地域とともにある、3年間一貫した探究的な学び」の体系づくり

長万部中学校

写真で見る学校の様子

長万部高等学校



6月24日
ピアサポート学習会



6月28日
毛がにまつりに出店



7月9日 長高祭準備

長万部中学校



6月27日
渡島中体連卓球大会男子



6月27日
渡島中体連卓球大会女子



7月5日 渡島中体連柔道大会

長万部小学校



6月26日 長万部公園に
遠足に行きました♪



7月8日
5年生が漁協の朝市で販売体験



7月8日
学文の亀田司書と図書交流

「地域とともに歩む学校」

を考える・・・

長万部高等学校長 土屋 靖 雅

道教委の政策の柱の一つに「高校の魅力化」があることは、幾度となく語らせていただいているところですが、では、何故「魅力化」が求められているのでしょうか。そして、これはいつ頃から語られ始めたことなのでしょう。

まず、背景として考えられることは、AIやデジタル技術の進展など、社会の劇的な変化に伴う学習ニーズの多様化が考えられます。また、少子化に伴う学校の小規模化や閉校、人口減少による地域を支える人材の確保への課題などが挙げられます。これらを踏まえ、生徒の修学機会の確保や地域創生の観点から高校の存在意義への期待が高まってきました。加えて、私立高校の授業料の実質無償化に伴う都市部への人口流失の懸念や、中学生の進路選択幅の拡大の観点からも、地域と高校が協働し、一体となった取組の推進が求められています。

化するものではありません。生徒の自己実現に向け、学校と地域とが「何ができるか」という視点を持つことが重要です。生まれ育った地域で学ぶことの価値を高めるとともに、生徒の学びの充実に取り組みことが基本となります。そして、その学びをとおして地域創生の実現を目指していくこととなります。

本校も「地域とつながり選ばれる学校」を標榜し、地域及び中学校間連携に努めてきたところであります。しかし、残念ながら、「選ばれる学校」とはいきれず、「再編整備」と隣り合わせになったことは、近年の歴史が物語っています。ありがたいことに、今年度の入学生は20名を越えましたが、やはり、油断はできません。継続的な地域の理解と協力が不可欠です。全道的に見ても、小学校の児童数は急激に減少します。長万部も例外ではありません。

だからこそ、改めて、「地域とともに歩む学校」とは何かを考えて行きたいと思っています。小学校、中学校、高校がそれぞれ一つしかない長万部だからこそ、できることがあるはずなんです。

地域とともに、地域の子どものために・・・